

# 桑原志織さん(ピアノ)応援レポート

## 「オーケストラ・セレーナ第8回演奏会」

2017年8月27日(日)14:00開演  
杉並公会堂大ホール

### <演奏会概要>

#### ◆プログラム

モーツァルト: 歌劇「魔笛」KV620序曲

チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第1番変ロ短調 Op.23

メンデルスゾーン: 交響曲第3番イ短調Op.56「スコットランド」

#### ◆アンコール

桑原さんのアンコール曲: ラフマニノフ 絵画的練習曲集

「音の絵」Op.39-1

オーケストラ・セレーナのアンコール曲: メンデルスゾーン

「真夏の夜の夢」より「夜想曲」



桑原さんの演奏は、とても堂々としていました。桑原さんの思いが、深く、豊かな音色に乗って伝わってきて、とても心が揺さぶられました。

普段の桑原さんは、一見したところ物静かに見えますが、一旦演奏が始まると、表情豊かな音色、旋律が次々と溢れ出てきます。まるで、桑原さんの中に秘められていた楽曲を慈しむ気持ちが解放されたかのよう。

桑原さんが、「音符の隅々まで作曲家の魂の声を感じながら演奏し、皆様と感動を共にできるよう、果てしない道のりではありますが、日々精進してまいります。」と書いていらっしゃるのを目にしましたが、確かに感動を共有し、音の無限の広がりを通して、自分自身の世界が広がった気がします。

幸せや喜びを感じたり、嬉しくなったり、感動したり。音楽の持つ力の素晴らしさを実感した演奏会でした。

演奏後の満足そうな、幸せそうな桑原さんの笑顔がとても印象的でした。

### ORCHESTRA SERENA オーケストラ・セレーナ

2017年8月27日(日) 13時半開場・14時開演  
杉並公会堂 大ホール (定価1,000円/観客7分)

指揮 中田 延亮  
ピアノ独奏 桑原 志織

第8回演奏会

モーツァルト: 歌劇「魔笛」KV 620 序曲  
チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23  
メンデルスゾーン: 交響曲第3番 イ短調 op.56 「スコットランド」

Orchestra SERENA 8th Concert  
Sun. 27 Aug 2017 2 p.m. | Sugiyama Koukaidoo  
Nobuaki Nakata / Conductor  
Shiori Kawai / Piano

W.A.Mozart: "Die Zauberflöte" KV 620 - Overture  
P.I.Tchaikovsky: Piano Concerto No.1 in B flat minor, op.23  
F.Mendelssohn Bartholdy: Symphony No.3 in A minor, op.56 "Schottische"

全席自由 1,000円 ※未就学児のご入場、会場内での飲食・喫煙はご遠慮します。



オーケストラ・セレーナ特別演奏会にご参加いたします。Webサイトよりお申し込みください。  
本演奏会の開催、定額7,000円(税別) (税込7,700円(税別))  
※本演奏会には、楽員募集の場を設けています。  
オーケストラ・セレーナWebサイト <http://o-serena.jp>

主催◆オーケストラ・セレーナ  
お問い合わせ◆メール [info@o-serena.jp](mailto:info@o-serena.jp) / 電話 050-3736-3594(松園)

(当日のプライヤーより)

## Q&A

以下の質問に対する桑原さんの回答を読んで、演奏会の日、桑原さんの演奏を聴いて何故心が震えたのか、その理由が分かった気がします。是非お読み下さい♪

Q1. 今日の演奏はチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番変ロ短調Op.23 でしたが、この有名な曲を弾かれるにあたり、どういう演奏を目指して臨まれましたか。

A1. チャイコフスキーは、私のピアノ協奏曲のレパートリーの中で最もオーケストラとの共演回数が多い曲です。この曲のファンも非常に多く、歴史的な名演も既にたくさんありますが、それにこだわりすぎず、今回はより自分らしく弾きたいと思いました。

この曲を私自身がどう感じているか、どのように歌いたいかなどをのびのびと表現するためにも、独りよがりにならないよう練習でスコア譜によく目を通しながら、説得力のある演奏を目指したつもりです。（下線は筆者による）



Q2. 財団のHPに、「私はいつも、聴いてくださる方々に演奏する曲の素晴らしさをお伝えしたい、その感動を共有したい、という気持ちでステージに臨みます。」とありますが、今日の演奏ではいかがでしたか。

A2. オーケストラとの協演はソリストにとって大きな幸せですし、何ととっても素晴らしい曲なので、私自身演奏しながらこの曲の偉大さをひしひしと感じました。

その喜びと感動を少しでもお客様と共有したいという気持ちは今回も常にありました。幸い、終演後のアンケートで本当にたくさんの嬉しいコメントをいただくことができました。

**Q3. チャイコフスキーは誰もが知るあまりにも有名な作曲家ですが、桑原さんにとってどんな作曲家ですか。**

A3. 小さい頃にクラシックバレエを習っていたので、発表会で白鳥の湖、くるみ割り人形などを踊りました。ですので、どこか懐かしく、馴染み深い作曲家です。

が、一方でチャイコフスキーのピアノソロ曲はまだそれほど弾いていませんので、これからさらに取り組んでいきたい作曲家でもあります。以前、この曲に初めて取り組むことになったときに、チャイコフスキーが影響を受けたと言われるチェーホフの作品をいくつか読んだのですが、すっかり私も気に入って夢中で読んだ思い出などもあります。



(指揮者の中田延亮先生と)

**Q4. 今日のコンサートを経て、何か新しい発見はありましたか。**

A4. 自分の技術面で、気が付いたことは多々ありました。大規模なホールで演奏する事は、普段の練習でなかなかないことなので、多くの気づきを得ることができますし、大変勉強になります。

今回改めてチャイコフスキーのピアノ協奏曲の素晴らしさと、その壮大なロマンを全身で感じとり、客席の皆様と共に味わえたことは大きな喜びでした。



**Q5. 今日はオーケストラ・セレーナさんとの共演でしたが、協奏曲の演奏にはどのような楽しさ、難しさがありますか。**

A5. 協奏曲の楽しさは、何ととっても巨大なアンサンブルです。 普段は客席で聴いているオーケストラの迫力ある演奏に、ソリストとして参加し、様々な楽器と対話できるのは私にとっては本当に幸せな時間です。もちろんソロや室内楽も大好きなのですが、協奏曲を演奏させていただく楽しさは格別です。今回の中田先生率いるオーケストラ・セレーナさんは、合わせ練習のときからエネルギーに溢れていて、本番も素晴らしい演奏で支えてくださいました。心から感謝しています。

協奏曲は、室内楽と違って短い合わせ練習のみで本番に臨まなければならないことが多く、作品によってはうまく合わずに苦勞することもあります。また、協奏曲は各作曲家の集大成ともいえる作品が多いので、非常にテクニカルで、且つ会場に合わせてピアノをしっかりと鳴らし響かせないといけない、などの難しさがあると思います。

(下線は筆者による)



(杉並公会堂のHPより)

Q6. どのような演奏家を目指していらっしゃいますか？そのために今は何をしたいと思っいらっしゃいますか。

Q6. 演奏会にいらして下さったお客様に寄り添い、何かしらお心を満たすことができる演奏をしたいですし、そんな演奏をするピアニストになりたいと思います。心を満たすものは曲目によって、またそれぞれの方によって違ってくると思います。喜び、慰め、安らぎ、勇気、希望など様々な可能性があるとありますが、何かで心満たされることが、イコール感動するという事ではないかと考えています。そのような演奏をするために私自身まだまだ勉強することが尽きません。お客様に曲の素晴らしさをお伝えして感動を共有したい、という気持ちは常に持ってステージに臨んでいます。

今後はピアノや音楽に限らず、とにかく芸術という幅広い世界にたくさん触れて、様々な知識と感性を磨いていきたいと思っます。そのためにも、やはり本場への留学というのは一つ有効な手段なのではないかと考えています。(下線は筆者による)

豆知識



### ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

1840年5月7日 - 1893年11月6日 国籍: ロシア

1840年 ウラル地方の田舎町で鉱山技師の子として生まれる。

5歳頃からピアノを習う。

50年 当時はまだ音楽家の地位も確立されておらず、父の意を汲み法律学校に学ぶ。

59年 学校卒業と同時に法務省に勤務。しかし音楽への情熱断ちがたく

62年 ロシア音楽協会付属の音楽学校(後のペテルブルグ音楽院)に入る。

63年 法務省の役人を辞職して音楽家への一歩を踏みはじめる。その裏

には、ルビンシテインから「君は才能はあるが音楽に対する姿勢がよくない。他に職業を持つていことで音楽に没頭できないのなら音楽の勉強をやめた方がよい」との忠告があったという。

65年 音楽院を卒業し、66年からルビンシテインが開設したモスクワ音楽院の教授となる。

75年 34歳の時に「ピアノ協奏曲第一番」を作曲。初演を依頼したルビンシテインの酷評を受けたが、指揮者であり、ピアニストでもあったハンス・フォン・ビューローに楽譜を送る。ビューローによる初演は大成功を収め、ルビンシテインはチャイコフスキーに謝罪し、自らもこの曲を演奏するようになった。

77年 モスクワ・ボリショイ劇場バレエ団によってチャイコフスキー作曲の「白鳥の湖」が初演されたが、初演は失敗に終わった。しかし、彼の死後2年後に演出家マリウス・プティパらが遺稿からこの作品を発掘し、振り付けなどを変えて蘇演した。この公演はたいへんな人気を博した。

バレエ音楽「眠れる森の美女」(初演1890年) 「くるみ割り人形」(初演1892年)

この3つのバレエ音楽が3大バレエ音楽として盛んに上演されるようになったのは彼の死後のことである。

(クラシック作曲家ファイル)中島克磨 ドレミ楽譜出版、およびインターネットより)

「お客様から大きな反響をいただいたとのことで、オーケストラの代表の方が、終演後のアンケート366枚のコピーを全て私に送っていただきました。お客様が喜んでくださったことがよくわかり、大変嬉しく思いました。」とのことでした。

楽曲の素晴らしさを伝えたい、共有したい。喜び、慰め、安らぎ、勇気、希望、、、何かで心を満たして欲しい。そういう強い思いを込めての演奏だったからこそ、心に響くものがあったのだと思っます。

ただ、強い思いさえあれば伝わるのではなく、その思いや願いを音に乗せて、聴き手に伝えるには、技術はもちろん、その他にも経験や幅広い知識など、さまざまなものが必要なのだと思っます。

桑原さんにはその伝える力、説得力がある。そしてその力は、今後の留学も含め、これからの色々な経験を経てもっと大きくなるのだと思っます。桑原さんが、これからどんな変化を見せてくれるのか、どこまで大きくなっていくのか、わくわくする位楽しみです。

## ごあいさつ

本日はオーケストラ・セレーナの第8回演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

先月にはマエストロ・中田が第7回ブルードナウ国際オペラ指揮者コンクールで2位に入賞し、団員一同、嬉しい気持ちで張り切り、臨み演奏会となりました。本日オペラに関連するプログラムは冒頭の魔笛序曲のみではありますが、皆様にお楽しみいただき、今後もマエストロを応援していただければと願っております。

また、毎回取り上げているコンチェルトでは、現役学生でもある若きソリスト・桑原志織さんをお迎えしました。と、書きましたが、「若き」という枕詞を使うのが憚られるような大きな音楽で、一気に聴く者を魅了して下さる素晴らしいピアニストです。チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番といえば聴きなれたメロディーが雄大に奏でられる有名曲ですが、細部には型にはまらない要素がたくさん表れます。ピアノの深い音楽と協奏できるようなオーケストラも演奏したいと思っておりますので、ご期待ください。

メインプログラムではメンデルスゾーンの交響曲を初めて取り上げます。なぜか某携帯会社の日本むかし話風のCMで使用されているこの曲、メンデルスゾーンがスコットランドの古城で発想を得て作曲したそうです。暑い夏、古城というと涼しそうですが、大汗をかきプログラムとなりそうで、お客様にも清涼感をご提供できるものかは分かりませんが、どうぞ最後までお楽しみください。

最後になりましたが、ご指導いただいた先生方、スタッフの皆様、そして毎日支えてくださるすべての方々はこの場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

オーケストラ・セレーナ 団長 村岡 ふみ

## 中田 延亮 Nobuaki Nakata / Conductor

「胸の空くような演奏（中略）、しかし本当に評価するべきこと、それは彼らの生み出す音楽がヨーロッパの模倣ではないということである（中略）。もし、この無駄がなくキリリと引き締まった演奏を日本的と呼べるなら、明治以来ようやく自然体で模倣から脱しオリジナリティーを主張する事の出来る音楽家が育って来たと言える。」（「音楽現代」誌より）

京都生まれ。筑波大学医学専門学群在学中に桐朋学園ソリストディプロマコースに入学しコントラバスを専攻する一方指揮を学び、在学中より活動を開始する。その後05年より本拠を欧州に移しウィーン市音楽院古楽科などで更に学んだ。また巨匠ジャン・フルネ氏に認められ最晩年の生徒として師事し大きな薫陶を受ける。

2007年ドナウ交響楽団主催の国際指揮者コンクールにて第1位を受賞。その後はラトヴィア国立交響楽団とのエストニアツアー、ルーマニアのブラショフ歌劇場など各国への客演を続けている。2008年にはブラジルにおける日本人移民100周年を記念して皇太子殿下ご臨席の下リオデジャネイロの伝統ある市立劇場で開催された「日伯交流音楽会」に招聘されペトロラス交響楽団を指揮した。2014年、群馬県で群馬バロックオーケストラを創設、後期バロックをレパートリーの軸にして活動を続けている。現代作品の演奏にも積極的に取り組み、

アンドリス・ゼニティス（ラトヴィア）、ガブリエル・ベニード（ブラジル）など各国の若い世代の作曲家から絶大な信頼を寄せられている。現在はスペイン、バレンシアに拠点を置き、上記各楽団に加えてポルト・アレグレ交響楽団（ブラジル）、新日本フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、神戸市室内合奏団、群馬交響楽団、東京シティフィルなどに客演している。その他これまでに上杉隆治、広上淳一、湯浅勇治、ミハエル・ディットリヒ、イサーク・カラブチェフスキー、ニールス・ムースの各氏にも教恩を受けた。またコントラバス奏者としては新日本フィルハーモニー交響楽団とバレンシア歌劇場管弦楽団に在籍した他、オーストリア・スペインの古楽団体、室内アンサンブルの公演にも数多く参加した。

2017年、第7回ブルードナウ国際オペラ指揮者コンクール第2位入賞。



©深谷義典/ara.Y2

## 桑原 志織 Shiori Kuwahara / Piano

1995年東京生まれ。2014年第83回日本音楽コンクール第2位、及び岩谷賞（聴衆賞）受賞。2016年第62回マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽コンクール第2位、及び最年少ファイナリスト賞受賞。東京藝術大学附属音楽高等学校在学中に、PTNA特級銀賞・聴衆賞・王子ホール賞、東京音楽コンクール第2位、ルーマニア国際音楽コンクール第1位・オーディエンス賞、福田靖子賞・優秀賞等を受賞し活躍の場を広げる。2014年度ヤマハ音楽振興会奨励学生。

これまで、アレクサンドル・ラザレフ、飯森範親、梅田俊明、円光寺雅彦、大井剛史、十束尚宏、渡邊一正の各氏指揮のもと、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティー・フィルハーモニック管弦楽団、藝大フィルハーモニアと共演し、チャイコフスキー、ラフマニノフ、リスト、ベートーヴェン、モーツァルト等のピアノ協奏曲のソリストを務める。東京文化会館、日本財団、カワイ表参道、杉並公会堂等、各地でリサイタルを行うほか、「N響メンバーと新進演奏家の出会い」、荻窪音楽祭等、室内楽の演奏会にも出演。

ホノルルNBCコンサートホール、ウィーン フランツ・リストホール等、海外演奏会にも招かれ、2015年国際音楽祭ヤング・プラハでは、ドヴォルザークホール（プラハ）にて地元オーケストラと共演。また在チェコ・ポーランド大使館にてリサイタルを行い、いずれも好評を博した。帰国後は皇后陛下御臨席のもと、在東京・チェコ大使館コンサートに出演。

現在、東京藝術大学にて伊藤恵氏に師事。学内にてアリアドネ・ムジカ賞受賞。江副記念財団第44回奨励学生。東京藝術大学宗次徳二特待奨学生。



（当日のプライヤーより）

# ORCHESTRA SERENA

オーケストラ・セレーナは、2010年、指揮者・中田延亮氏の下に発足した、東京都内で活動するアマチュアオーケストラです。年1回、夏季の演奏会を中心に活動しています。協奏曲にも積極的に取り組んでおり、これまでに瀬崎明日香（ヴァイオリン）、花崎薫（チェロ）、津田裕也（ピアノ）、グレブ・ニキティン（ヴァイオリン）、米元響子（ヴァイオリン）の各氏と共演しています。



「セレーナ」とは、「穏やかな晴天」という意味ですが、その他にも「晴れ晴れした」「落ち着いた」「客観的な」といったような意味があり、晴天の空のように頭がスッキリしている状態も指しています。私たちがこの言葉のように、明るく音楽に心躍らせながらも、頭をクリアに、柔軟なアンサンブルのできるオーケストラを目指していきます。

## Trainers

大浦 智弘	指揮者	花崎 薫	チェロ奏者、愛知県立芸術大学教授・武蔵野音楽大学講師
須山 芳博	元 東京シティ・フィル首席ホルン奏者、武蔵野音大専任講師	道端 大輝	指揮者
田部井 剛	指揮者	森川 一	ファゴット奏者、「音楽合奏は楽しい会？」主宰
グレブ・ニキティン	東京文楽楽団 コンサートマスター		(50音順・敬称略)

## Staff

団 長：村岡 ふみ	会 計：小塩 みどり	ステージマネージャー：平田 信嗣
練習担当インスペクター：西川 祥子	報 告：内田 恵里	会 場 ス タ ュ ッ プ：植松 隆治 及川 菜々恵
山内 啓	香川 玲子	小川 玲子 片貝 民男
演奏会インスペクター：佐々木 裕子	一村 智恵子	上谷内亜規子 工藤 元子
練習 計 画：柳田 允	松重 英子	塚田 優子 津田 卓哉
施 設：石黒 祐子	録：米元 崇	橋詰 みずほ 松嶋 方子
山内 めぐみ	白鳥 あゆみ	美馬 浩子 吉川 肖子
ライブラリアン：松本 大介	内 務：熊谷 真由子	
	友國 さやか	

## Orchestra Members

<b>1st violin</b>	<b>2nd violin</b>	<b>viola</b>	<b>violoncello</b>	<b>flute</b>	<b>horn</b>
安藤 久人	浅見 有希	内田 恵里	小河 秀太	石黒 祐子 ●	大村 朋之
井上 喜晴 ●	川嶋 麻未	小塩 みどり	佐々木 悦子	横堀 智香	白石 恒太 ●
大内 一輝	白鳥 あゆみ	片山 加奈子	古市 慎太郎 ★		友國 さやか
香川 玲子	神野 妙子	木曾 基弘	松重 英子	<b>oboe</b>	松田 吉将
片岡 美穂	徳田 春香	杉原 泰三	山縣 忠	阿部 理乃	
津田 まや	中井 聡	長野 靖之	米元 崇 ●	住田 憲昭 ●	<b>trumpet</b>
手嶋 悠生	西川 祥子 ★	畑中 究			磯部 喜三郎 ●
林 真由美	増田 律子	山内 めぐみ ● ★	<b>contrabass</b>	<b>clarinet</b>	十川 雅彦
菱田 真名美	松本 大介		石井 明	大野 悦子	<b>trombone</b>
村岡 ふみ ★			一村 智恵子 ●	中島 幸夫 ●	佐藤 奏 ●
			松岡 和男	<b>bassoon</b>	千田 有志
			丸 陽子	清水 孝也 ●	田久保 勇也
			元吉 寿夫 ★	福田 哲之	<b>timpani</b>
					千秋 修子 ●

- セクションリーダー
- パートリーダー
- ★弦首席奏者

【オーケストラ・セレーナ 第9回演奏会のご案内】

2018年8月19日(日) 14時開演予定 at 杉並公会堂

指揮：中田 延亮 曲目：ブラームス 交響曲第4番 他

お問い合わせ [info@o-serena.jp](mailto:info@o-serena.jp) ウェブサイト <http://o-serena.jp/>

(当日のプレイヤーより)